

別府大学附属図書館リニューアル記念イベント 「Opening New Doors」実施報告

— 図書館イベントの重要性と図書館資料の範疇 —

佐 藤 晋 之

【要 旨】

本稿は、別府大学附属図書館リニューアル記念イベント「Opening New Doors」の実施報告である。本稿では、企画の構想から施設・設備、広報・受付、実施までの経緯をまとめ、アンケート調査の結果を分析する。また、本企画は、地域を拠点に活動する音楽アーティストの演奏を地域資料の一つとして活用した図書館における地域連携の事例となる。この事例から、図書館イベントの重要性及び図書館資料の範疇についても考察する。

【キーワード】

図書館 イベント コンサート 地域資料 地域連携

1. はじめに

2021年3月に別府大学附属図書館1階がLibrary Loungeとしてリニューアルオープンした。附属図書館の大規模リニューアルは、別府大学が創立されて以来、初めてのことである。本稿は、リニューアル記念として開催されたイベントの実施報告である。

Library Loungeは、「親しみと過ごしやすさ」をコンセプトとしている。Library Loungeオープン以来、大学史の展示や学生生活に関わる資料展示といった企画展示を主として行い、アクティブな学修環境の提供に努めている。リニューアル記念イベントは、アクティブな学修環境を提供する取り組みの中で、これまで図書館に足を運ばなかった潜在的利用者にも来館してほしいという発想から「Opening New Doors」と題して音楽コンサートが開催された。本稿では、「Opening New Doors」開催までの流れや実際の運営、今後の課題をまとめる。最後に、図書館イベントの重要性及び図書館資料の範疇についても述べる。

2. 「Opening New Doors」概要

別府大学附属図書館リニューアル記念事業は、令和3年度学長裁量経費によって採択されたものである。ここでは、企画構想から施設・設備、広報・受付、実施までの経緯について説明する。

2. 1 企画構想

本企画が構想された時期は、新型コロナウイルス感染症が猛威を奮う2021年3月頃、Library Loungeのオープン直後だった。この頃は、コロナ禍によって社会の様々な活動や機能が制限されていた。図書館においても利用制限や閉館といった措置が取られていた。そのため、リニューアル記念イベントの開催については、コロナ禍が小康状態になるのを待ち、学外者の利用もできる状況になってから開催するという判断になった。このような状況下での開催には、Library Loungeの魅力を示すことに加えて、コロナ禍における図書館の新たな取り組みを社会に対して提案する意味でも重要な役割があると感じていた。

Library Loungeの魅力は、コンセプトにもあるように親しみと過ごしやすさを感じるこのできる場である。本企画では、親しみと過ごしやすさといった魅力を最大限に生かすために、来場者にとって親近感を抱きやすい地域を拠点に活動するアーティスト（以下、ローカル・アーティスト）を起用することにした。

コロナ禍における図書館の新たな取り組みとして、ローカル・アーティストによる演奏を録画録音してデータとして管理・提供することで、今その地域で生活をしている人々に必要な資料、つまり、地域資料の一つとして提案できるのではないかと考えた。文部科学省^[1]は「映像の地域資料は地域の様子や生活の姿を具体的に記録できる点で優れている」と述べている。そのため、本企画では、ローカル・アーティストの演奏映像を地域資料としてインターネットを介して配信することとした。

リニューアル記念イベントのタイトルは、Library Loungeのお披露目という意味以外にも、潜在的利用者に対して図書館の魅力とともに地域の魅力を再発見するきっかけにもなってほしいという想いを込めて「Opening New Doors」とした。

2. 2 先行事例

大学図書館で実施可能な一般的なイベントについて、篠^[2]は「①著名人等を招いての講演会、②何かテーマを設定し、図書やそれに関連する写真などの展示、③学生や教員が主体的に参加する企画がある」と述べている。本企画は、①の講演会に近い企画ではあるものの、コンサートは専門分野などの学術的な背景を必要としない、もしくは、限定しないため、講演会とは一線を画すと言える。また、大学図書館におけるコンサート企画の事例は、③の学生や教員が主体的に参加する企画として、大学の吹奏楽部などがセレモニーの一つとして行った事例が多く見受けられる。しかしながら、大学図書館においてプロの演奏家によるコンサートがメインの企画として実施された事例は見当たらなかった。本企画は、大学図書館において実施されるイベントとして新規性があると考えられる。

公共図書館におけるコンサート企画には多くの事例がある。その中でも、アマチュアではなく、プロによるコンサートの事例を2例紹介する。ひとつは、2019年に桜井市立図書館で行われた開館20周年記念ライブラリーコンサート「ピアノで歩む『森の道』コンサート」^[3]である。これは、演奏者が本と音楽を繋ぐ活動をしており、特定の書籍の世界観から選曲した企画である。次に、2020年に世田谷区立図書館で行われた「子どもから大人まで楽しめる図書館コンサート」^[4]は、2019年に老若男女を対象として開催され大好評だったことから2年連続の開催になった企画である。これらの事例から、コンサートが世界観を伝える方法の一つになり得ることやコンサートが対象者を限定しない企画であることが分かる。そのため、Library Loungeの魅力も潜在的利用者に伝えるための方法としてコンサートを企画したことは妥当だと言える。

昨今の図書館イベントでは、武雄市図書館や紫波町図書館が話題になった。武雄市図書館で

は、図書館施設の雰囲気や特徴を活かして地域住民の健康促進のためのヨガ教室^[5]を行っている。また、紫波町図書館では、地域のお酒と食材を楽しみながら施設内にある読書テラスで読書をするといった図書館施設と地域産物を融合させた「book bar」^[6]という企画もある。これらの事例から、図書館は資料や情報を管理・提供するだけの場ではなく、地域と連携して公共の利益に資する場として機能する施設であることが分かる。大学図書館の地域連携について、折井ら^[7]は「(大学の) 附属図書館のコレクションを市民に公開することは地域連携の一つのあり方である」と述べている。本企画は、ローカル・アーティストを起用した点や地域住民に広く公開する点において図書館における地域連携の新しい取り組みだと言える。

図書館でのイベント開催について、高橋^[8]は、内外における広報やスタッフの意識向上に効果があると述べている。内外における広報とは、イベントがマスコミや利用者といった外部から評価されることで親機関や経営陣から図書館が評価されるといった内部広報と情報の拠点としての図書館を周知できる外部広報のことである。また、スタッフの意識向上については、日常業務に追われる中で失いかけていた司書としてのやりがいをイベントの運営を通して見出し積極的になることを挙げている。

以上の先行事例を見ると、本企画の実施は、大学図書館の企画としての新規性やリニューアル記念イベントとしてコンサートを企画した妥当性、図書館における地域連携のあり方への提案、図書館内外への広報という点において大きな意義があると考えられる。

2. 3 施設・設備

本企画が開催された会場は、別府大学本館にある附属図書館1階 Library Lounge (写真1、写真2) である。Library Lounge は、大きなガラス窓で周囲を囲まれ、間接照明やソファ席など利用者がくつろげる工夫があり、近代的で明るい雰囲気となっている。通常の閲覧スペースとは異なり、利用者同士の会話やグループ学習も可能となっている。また、企画展示スペースが設けられており、大学史に関する展示や学生生活に沿った企画展示が常時行われている。コロナ禍ではオンライン授業を受講する学生の姿も多くあった。

「Opening New Doors」開催時は、新型コロナウイルス感染症対策が必須だった。そのため、学習用テーブルを移動させ、ソーシャルディスタンスを保つことのできる客席として、ソファ席を含む40席を用意した。また、ガラス窓から見える夕暮れ時の景色も楽しんでいただきたいという図書館長の思いから、通常の蛍光灯を消灯し、スポットライトの照明のみを点灯させ、日中のアクティブな雰囲気とは違ったムードのある舞台演出を試みた。出演者控室として、附属図書館3階のワロニールームを提供した。



写真1 Library Lounge (1)
全席コンセント及びWi-Fiを完備。会話も可能であるため利用者の憩いの場となっている。



写真2 Library Lounge (2)
ガラス窓側には、カウンター席が配置されている。利用者がリラックスできるスペース。

2. 3 広報・受付

「Opening New Doors」開催時の新型コロナウイルスの感染状況は、小康状態ではあったものの感染対策を徹底しなければならない状況だった。広報活動は、来場者の密を避けるため、主に学内者に向けて SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を中心とした必要最低限の情報発信に留めることにした。受付においては、手指消毒や検温に加えて、氏名と連絡先の記入を実施した。表 1 に広報媒体と方法を示す。

SNS による広報では、附属図書館アカウントのみではなく、司書講習アカウントや司書課程教員 1 名（筆者）のプライベートアカウントも活用して広報の対象者を振り分けた。チラシによる広報では、特定少数の来場者を見込むため、学内者及び出演者の関係者のみに配布した。別紙 1 にチラシ（表面）を示す。プレスリリースによる広報の結果、新聞社 2 社からの取材申し込みがあった。これは、来場者数に貢献するためではなく、図書館での取り組みを示すことを目的にしたため、コンサート後に紙面掲載とした。

表 1. 「Opening New Doors」広報媒体と方法

媒体	方法
附属図書館 Instagram	主に大学関係者に向けて投稿を行った。
司書講習 (Instagram, Facebook, Twitter)	主に司書講習受講生に向けて投稿を行った。
司書課程教員 (Instagram, Facebook)	主に司書課程履修者に向けて投稿を行った。
HP (附属図書館)	別府大学附属図書館 HP へのニューストピックス掲載
HP (大学)	別府大学 HP へのニューストピックス掲載
プレスリリース	大学広報室から各メディアに向けて情報発信を依頼
チラシ (学内掲示)	学内 5 か所にチラシを掲示
チラシ (配布)	来館者や出演者、その関係者に計 300 部を配布

2. 4 実施

別府大学附属図書館リニューアル記念イベント「Opening New Doors」は、ローカル・アーティストを起用した音楽コンサートである。開催形式は、対面及びオンライン配信とした。オンライン配信を併用した理由は、コロナ禍によって来場が困難な方や不安を覚える方に対する配慮の面から、ニューノーマルなライフスタイルに合わせ、距離に関係なくより多くの人にコンサートを楽しんでもらいたいという気持ちでの試みである。同時に、この試みは、コンサート映像を地域資料として社会に広く公開するものでもあり、図書館における地域連携の取り組み事例の一つである。

オンライン配信においては、司書課程教員（筆者）の大学アカウントで無料動画配信サービス YouTube にチャンネル^[9]を開設した。YouTube を選択した理由は、様々な無料動画配信サービスの中でも利用者数が最も多く一般的なサービスとなっているためである。また、YouTube と著作権管理団体の一般社団法人 JASRAC が連携しており、著作権の手続きが簡便になることが挙げられる。加えて、YouTube とオンライン会議システム ZOOM も連携しているため、コロナ禍で ZOOM によるオンライン授業に慣れた学生らに配信チャンネルの周知及び誘導が容易であることも理由の一つである。なお、YouTube のチャンネル開設にかかる手続きの関係上、コンサート 1 日目のみ、筆者の Facebook プライベートアカウントからライブ配信を行い、後日 YouTube で公開した。

当日の流れを整理する。開催日は土曜日であるため、図書館の開館時間は15時までとなっている。そのため、図書館閉館後の15時から機材搬入及び会場設営、リハーサルを行った。リハーサルは、開演15分前までを目途に行った。附属図書館3階のワロンルームを出演者の控室として準備・提供した。

コンサートの開催時刻は、大学の施錠時刻が20時であるため、来場者の退場や後片付けにかかる時間を見込み、17時から18時までの60分とした。コンサートのおおまかな流れは、司会(筆者)によるイベントの趣旨説明に続き、図書館長挨拶があり、アーティストらによるパフォーマンス、最後に司会から所感と図書館長挨拶があり閉幕とした。終了後に来場者にアンケート調査を実施した。アンケート調査の詳細は次章で述べる。

出演者情報の概要を以下に示す。詳細は別紙2「チラシ裏面」を参照されたい。1日目は、ウクレデュオ Kumiko & Kai である。大分県を拠点とし、ハワイアンを中心に音楽活動をしている Duo である。スラックキーギターとウクレレの KAI 氏、ボーカルとウクレレの KUMIKO 氏で構成されている。

2日目は、フルートの小野美希氏とピアノの小町美佳氏である。両名とも様々なコンクールでの入賞経験を持ち日々演奏活動の傍ら指導育成にあたっている。

3日目は、別府市在住のクラシックギタリスト溝口伸一氏である。溝口氏は、大分県芸術文化スポーツ振興財団主催のアウトリーチプログラム登録アーティストであり、溝口ギター教室を主宰、指導にもあたっている。また、九州ギター音楽協会公認講師でもある。本企画の出演者らの選定から交渉までを担った。

3. 開催記録

開催記録として、開催日程と来場者の概要及びアンケート調査について報告する。

3. 1 開催日程と来場者

コンサートは、大分県を拠点に活動するアーティストらによる全3回(3日間)のリレー形式で実施した。開催日程は、第1回が2021年12月4日、第2回が2022年1月8日、第3回が1月22日だった。第1回・2回は、新型コロナウイルスの感染状況が小康状態だったため、対面及びオンライン配信での開催となった。その後、オミクロン株による急激な感染状況の悪化に伴い、第3回はオンライン配信のみでの開催となった。

来場者は、第1回・2回ともに全体の1割程度が学生や教職員の学内者であり、9割近くの前場者は学外者である地域住民だった。オンライン配信の視聴者については、生配信中の視聴者よりも録画の視聴者が多かった。来場者の詳細については、アンケート結果において詳述する。なお、第3回はオンライン配信のみのため来場者数は0名となっている。コンサート概要を表2に示す。

表2. コンサート概要 (2022年1月31日現在)

開催日	演奏楽器	対面来場者数	YouTube 再生回数
2021年12月4日(土)	ウクレレ	21名	169回
2022年1月8日(土)	フルート、ピアノ	31名	163回
2022年1月22日(土)	クラシックギター	0名	280回
合計		52名	612回

3. 2 開催の様子

1日目は、ウクレレとギターによるハワイアンコンサート(写真3)だった。キッズのフラダンサーがダンスを披露したり、アーティストと来場者が一緒にフラダンスをしたりする時間(写真3)があり、会場は和やかで親密な空気に包まれていた。また、別府温泉をテーマにしたオリジナル楽曲の演奏もあった。演奏曲目数は、計12曲だった。

2日目は、フルートとピアノによるクラシックコンサート(写真4)だった。華やかな衣装でクラシックの定番から現代曲まで様々な楽曲を披露した。会場は、クラシックの荘厳な雰囲気が漂っていた。家族連れの様子が多く、幅広い世代の来場者が一緒に楽しむことができた時間だった。演奏曲目数は、計9曲だった。

3日目は、クラシックギターによるコンサート(写真5)だった。この日は、オンライン配信のみでの開催だったため、会場には関係者のみの姿があった。これまでの回とは違い、演奏者が一人であるため、ナビゲーターを筆者が務めた。来場者がおらず静まり返った図書館の中に、クラシックギターの素朴な音色がよく響いていた。演奏曲目数は、計11曲だった。



写真3 コンサート風景(1日目) フラダンスを踊っている様子。



写真4 コンサート風景(2日目) 多くの来場者でにぎわう様子。



写真5 コンサート風景(3日目) オンライン配信の様子。

3. 3 アンケート調査の概要と結果

アンケート調査は、第1回・2回は対面で開催したため、来場者にアンケート用紙を配布して実施した。第3回は、オンライン配信のみでの開催だったため、アンケートを作成・分析できる無料サービス Google forms を利用して実施した。Google forms での回答期間は、コンサート終了後から2022年1月31日までとした。

アンケート項目は、1) 所属、2) 別府大学附属図書館の利用経験の有無、3) コンサートを知ったきっかけ、4) コンサートに来場(視聴)した動機、5) コンサートの満足度(5段階)、6) 意見・要望・感想等の自由記述の全6項目を設定した。

アンケートの回収数と回収率を表3に示す。対面での開催だった第1回が20件(95.2%)、第2回が31件(100%)とほぼ全ての来場者から回答を回収できた。オンライン配信のみでの開催だった第3回の回収率は、アンケートの回答期限日である2021年1月31日時点でのYouTube動画の再生回数を基に計算した。そのため、他の回の回収率と単純に比較できない。Google formsの集計結果では、視聴者がアンケートに回答した日時(タイムスタンプ)が表示される。タイムスタンプによると、10件の回答が寄せられたタイミングの内訳は、5件がコンサート終了直後、2件がコンサート翌日に筆者がSNSに終了報告を投稿した直後、3件が筆者のSNS投稿への反応数(いいね数やコメント数)がピークに達した頃だった。

表3. アンケート回収数及び回収率

	第1回	第2回	第3回
来場者数	21名	31名	280回
回収数	20件	31件	10件
回収率	95.2%	100%	3.6%

コンサートの来場者の属性を表4に示す。全日程を通して見ると、一般の来場者が61名中36名(59.0%)と最も多かった。次に、教職員8名(13.1%)、学生5名(8.2%)という結果になった。

表4. 来場者の属性

	第1回 (n=20)		第2回 (n=31)		第3回 (n=10)		全日程 (n=61)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
学生	1	5.0	4	12.9	0	0.0	5	8.2
教職員	1	5.0	6	19.4	1	10.0	8	13.1
一般	9	45.0	18	58.1	9	90.0	36	59.0
無回答	9	45.0	3	9.7	0	0.0	12	19.7

別府大学附属図書館の利用経験の有無を表5に示す。全日程を通して、別府大学附属図書館の利用をしたことのある来場者と利用したことのない来場者は同数だった。また、個別の開催日を見てもほぼ同数という結果だった。

表5. 別府大学附属図書館の利用経験の有無

	第1回 (n=20)		第2回 (n=31)		第3回 (n=10)		全日程 (n=61)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
有	8	40.0	15	48.4	5	50.0	28	45.9
無	9	45.0	14	45.2	5	50.0	28	45.9
無回答	3	15.0	2	6.5	0	0.0	5	8.2

コンサートを知ったきっかけを表6に示す。全日程において、コンサートを知ったきっかけは、「家族・友人・知人」が30名(49.2%)と最も多かった。次に、「チラシ」が20名(32.8%)という結果になった。その他として、「音が聞こえてきたため」や「出演者からの情報提供」、「教職員からの情報提供」という結果があった。「HP」や「SNS」の割合は、それぞれ3.3%、8.2%と低い結果となった。

表6. コンサートを知ったきっかけ

	第1回 (n=20)		第2回 (n=31)		第3回 (n=10)		全日程 (n=61)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
大学 HP	0	0	1	3.2	1	10.0	2	3.3
授業内での告知	1	5.0	2	6.5	0	0.0	3	4.9
SNS	1	5.0	1	3.2	3	30.0	5	8.2
家族・友人・知人	12	60.0	15	48.4	3	30.0	30	49.2
チラシ	7	35.0	11	35.5	2	20.0	20	32.8
その他	2	10.0	6	19.4	1	10.0	9	14.8
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

コンサートに来場（視聴）した動機を表7に示す。全日程におけるコンサートへの来場（視聴）動機は、「出演者の演奏に興味があった」が31名(50.8%)と「音楽に興味があった」が30名(49.2%)でほぼ同数となり最も多い意見だった。続いて、「図書館に興味があった」が12名(19.7%)だった。その他は、「なかなか演奏に触れる機会がなく聞いてみたかった」や「子どもと音楽を楽しみたかった」、「(SNSで)司会者が情報共有していたから」という結果があった。

表7. コンサート来場（視聴）動機（複数回答可）

	第1回 (n=20)		第2回 (n=31)		第3回 (n=10)		全日程 (n=61)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
出演者の演奏に興味があった	9	45.0	18	58.1	4	40.0	31	50.8
音楽に興味があった	13	65.0	17	54.8	0	0.0	30	49.2
図書館に興味があった	4	20.0	4	12.9	4	40.0	12	19.7
なんとなく興味があった	2	10.0	6	19.4	1	10.0	9	14.8
その他	1	5.0	1	3.2	1	10.0	3	4.9
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

コンサートの満足度を表8に示す。コンサートの満足度を見ると、「非常に満足」が40名(65.6%)と「満足」が16名(26.2%)で9割を超える結果となり、概ね好評だったことが分かる。第3回の満足度で「普通」と回答した理由は、「音声・映像の質を上げてほしい」とのことだった。

それぞれの回において、「ともかく上手かったので、ずっと聴いていたいと思いました」や「素晴らしい演奏！素てきな時間が過ぎせました。ありがとうございます!」、「是非、毎年の恒例行事にしてほしい」といった高い満足度を示すコメントが数多く寄せられた。

表8. コンサート満足度

	第1回 (n=20)		第2回 (n=31)		第3回 (n=10)		全日程 (n=61)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
非常に満足	12	60.0	22	71.0	6	60.0	40	65.6
満足	6	30.0	7	22.6	3	30.0	16	26.2
普通	0	0.0	0	0.0	1	10.0	1	1.6
やや不満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	2	10.0	2	6.5	0	0.0	4	6.6

最後の質問項目は、意見・感想・要望等の自由記述である。以下に、主な意見を箇条書きで示す。

- ① 選曲も良くて、曲の紹介もわかりやすく楽しかったです！図書館もオシャレ！！
- ② 定期的にこのようなコンサートを開催してほしい。
- ③ 図書館の中での素晴らしい演奏会、楽しかったです！
- ④ 親子で初めて別府大学にきました。とてもきれいで素敵な空間での素敵なコンサート、音色に癒されました。コロナ問題が深刻ではありますが、気軽に一般の人が大学に入れる機会が身近にあるというのは嬉しいです。
- ⑤ “ナマ”の演奏で、またお二人の輝かしい演奏の経歴を堪能することが出来て素晴らしかったです。しかも地元大分のご出身で郷土の誇りも感じました。別府大図書館も素敵なリニューアルで、盛り上がり良かったです。この種のイベントがまた開催されると嬉しいです！！今回の迫力あふれる演奏会に感激しました！！
- ⑥ 夜のラウンジも良い雰囲気でしたが、次はお天気の良い昼間に同じプログラムで、生で聴いてみたいです。
- ⑦ (前略) コロナ禍で落ち込んでいる時代にホッとできる時間を作っていただきありがとうございました。いつか別府に行く機会があれば必ず図書館にお邪魔させていただきます。こんな素敵な企画をしてくれる大学に通える学生さんが羨ましいです。(後略)
- ⑧ (前略) このようなイベントがあると行ってみたいと思う人が増えると思います。一般の人でもイベントの開催を知るきっかけがあると良いと思います。(後略)
- ⑨ (前略) 出席とユーチューブで、拝聴しましたが、その取り組みには、新鮮な感動を覚えました。(中略) 親しみと臨場感にあふれて、豊富なプログラムで、素晴らしかったです。(後略)

3. 4 アンケート結果分析

コンサート概要(表2)のYouTubeの再生回数を見ると、第1回が169回、第2回が163回だが、第3回は280回と多い。これは、対面で来場できなかった利用者が配信を視聴していたことや第3回ということで認知度が向上していたこと、過去2回とは開催形式が違うことからの真新しさなど様々な要因が考えられる。

アンケート回収数及び回収率(表3)を見ると、対面での開催時はほぼ全ての来場者が回答していた。一方、第3回のオンライン配信では、回収率3.6%と低くなっている。回収率が低くなったことについては、画面からスマートフォン等でGoogle formsを開くためのQRコードを読み取ったり、動画の概要欄からリンクを辿ったりと視聴者の工数が増えるため概ね想定通りだった。しかし、Google formsのタイムスタンプを見ると、ライブ配信直後やSNS投稿直後に回答が寄せられていることが分かる。今後は、情報発信のタイミングや視聴者の工数を減らす工夫をすることで各メディアからの情報発信がより効果的なものになり、より多くの回答を回収できる可能性がある。

来場者の属性(表4)の全日程を見ると、一般の来場者が最も多かったことが分かる。また、別府大学附属図書館の利用経験の有無(表5)を見ると、半数が経験有で、半数が経験無となっている。表4と表5の結果をまとめると、コンサート来場者(視聴者)の中に附属図書館に来たことのない一般の利用者が一定数いたことが分かる。これは、潜在的利用者が来場(視聴)したことを意味しており、潜在的利用者の発掘という目的を達成したと言える。

コンサートを知ったきっかけ(表6)を見ると、「家族・友人・知人」と「チラシ」のアナログメディアが多く、「HP」や「SNS」のデジタルメディアは少なかった。この結果については、来場者が特定少数になるように行った広報活動の成果だと言える。ただし、第3回のオンライン

配信においては、デジタルメディアの特性を活かして不特定多数の視聴者を獲得する広報活動を行うべきだった。

コンサートへの来場（視聴）動機（表7）を見ると、第1回・2回は出演者や音楽に興味がある人が多いことが分かる。一方で、第3回のオンライン配信になると、音楽への興味よりも図書館への興味がある人の方が多くなる。これは、対面においては、来場者が出演者と師弟関係など知り合い関係であるためや楽器の生演奏に興味があるためだと考えられる。オンライン配信においては、音楽への興味だけであれば、よりクオリティの高い音質や画質で提供されている動画がある。そのため、図書館におけるコンサートという企画そのものにも興味を持ってもらえたのではないかと推察する。

コンサート満足度（表8）を見ると、ほぼ全てが「非常に満足」もしくは「満足」という結果だった。この結果について、自由記述の回答から、来場者（視聴者）の満足度に繋がった要因を以下に考察する。

まず、「①選曲も良くて、曲の紹介もわかりやすくて楽しかったです！図書館もオシャレ！！」や「③図書館の中での素晴らしい演奏会、楽しかったです！」といった意見からは、Library Loungeの場とコンサート内容の組み合わせの相性が良かったことが満足度を高めた可能性がある。

次に、「④親子で初めて別府大学にきました。（中略）気軽に一般の人が大学に入れる機会が身近にあるというのは嬉しいです。」や「⑧（前略）このようなイベントがあると行ってみたいと思う人が増えると思います。一般の人でもイベントの開催を知るきっかけがあると良いと思います。（後略）」、「⑦いつか別府に行く機会があれば必ず図書館にお邪魔させていただきます。」という意見からは、大学という敷居が高く閉ざされたイメージから誰にでも分かりやすい企画で開かれたイメージになったことが満足度に繋がったと考えられる。

そして、⑤の意見「地元大分のご出身で郷土の誇りも感じました。（中略）別府大図書館も素敵なりニューアルで、盛り上がって良かったです。」とあり、ローカル・アーティストの活躍や別府大学の先進的な取り組みが郷土愛に溢れた地域住民の満足度に繋がったものと推察する。

最後に、⑦の意見「コロナ禍で落ち込んでいる時代にホッとできる時間を作っていただきありがとうございます。」や⑨の意見「出席とYouTubeで、拝聴しましたが、その取り組みには、新鮮な感動を覚えました。」からは、コロナ禍によって様々な機能や行動が制限される状況においても図書館には利用者に対して提供できる取り組みがあるということを示すことができたことで満足度に繋がったと考察した。

4. まとめ

本企画は、別府大学附属図書館のリニューアルを記念して実施された企画である。本企画を通して、図書館イベントの重要性や図書館資料の範疇について再発見できた。

図書館イベントについては、高橋^[8]の図書館イベントの効果でも述べたように、学内外からたくさんの声が届いており、イベント実施による内外における広報としての効果を確認できた。また、コロナ禍によって様々な機能や行動が制限されている中でも図書館から利用者に対してできる取り組みがあることを発見できたことも大きな収穫である。そして、図書館の資料や機能を活かすことで地域と繋がることができることも分かった。今後も地域に開かれた大学図書館として学内外の利用者にアピールできる企画を実施していく必要がある。

今回は、ローカル・アーティストのコンサートを録画録音してインターネットを介して動画を配信した。この動画を地域資料として位置付けた。普段から図書館を利用している利用者にも言

えることではあるが、特に、図書館を利用しない学生や地域住民などの潜在的利用者には、「図書館資料＝本」という認識がある。その中でも、地域資料においては、歴史的に意味のある限られた資料を指すように思われている。しかし、本企画を通して、映像や音楽なども図書館資料としてコレクションされるべきであり、今その地域で生活する人に必要な資料を地域資料として管理・提供する必要性を示すことができた。本企画は、図書館資料の範疇を再認識するきっかけになったと言える。

今後の課題は、別府大学附属図書館が地域に開かれた図書館として、音楽以外の地域資料をも発見し、それを学内外の利用者が親しみを持って利用できるよう発展させ、一人でも多くの潜在的利用者に図書館での時間を過ごしてもらうきっかけを作ることである。また、コロナ禍によるニューノーマルな時代において、図書館にできること、すべきことを考え取り組むことで、図書館員や司書を目指す全ての人の希望の光になることを使命としたい。

謝辞

本稿は、筆者が別府大学附属図書館リニューアル記念イベント「Opening New Doors」企画の実施報告としてまとめたものです。附属図書館長浅野則子先生には本企画実施及び本稿執筆の機会を与えて戴きました。ここに深謝の意を表します。並びに、クラシックギタリスト溝口伸一氏には本企画実現に向けて多大なるご尽力を戴きました。ここに感謝の意を表します。本企画は、令和3年度学長裁量経費によるものです。

参考文献

- [1] 文部科学省. “これからの図書館サービスのあり方”. 文部科学省ホームページ. https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/toshogai/giron/05080301/001/003.htm. (参照：2022-02-01)
- [2] 篠麻子. “明治大学和泉図書館におけるイベント「Book Share Talking」の運営と課題－2013年度実施報告とともに－”. 図書館の譜：明治大学図書館紀要. 明治大学, 2014, 18 : p. 191-208. [toshokankiyo_18_191.pdf](https://www.meiji.ac.jp/toshokankiyo_18_191.pdf) (meiji.ac.jp). (参照：2022-02-01)
- [3] 桜井市立図書館. “桜井市立図書館開館20周年記念ライブラリーコンサート”. TRC 図書館流通センターホームページ. https://www.trc.co.jp/topics/event/e_sakuraishi_13.html. (参照：2022-02-01)
- [4] 世田谷区立図書館. “子どもから大人まで楽しめる図書館コンサートを開催しました”. 世田谷区立図書館ホームページ. 2020-11-12. <https://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/main/0000003913/article.html>. (参照：2022-02-01)
- [5] 武雄市図書館. “武雄市図書館で朝活”. 武雄市観光協会ホームページ. <http://www.takeo-kk.net/experience/001438.php>. (参照：2022-02-01)
- [6] 紫波町図書館. “book bar 開店します”. 紫波町図書館ホームページ. http://lib.town.shiwa.iwate.jp/event/20180721_01.html. (参照：2022-02-01)
- [7] 折井匡, 小島浩子, 郷原正好. “信州大学附属図書館における地域連携：図書館の多様な連携のあり方”. 信州大学学術情報オンラインシステム SOAR. 2012-09-24. <https://soar-ir.repo.nii.ac.jp/records/387#>. Yfha_fvP3MY. (参照：2022-02-01)
- [8] 高橋美香. “潜在的利用者を掘り起こし図書館に目を向けさせるためのPR：イベントを中心とした企画戦略：経済広報センターの場合（特集：戦略的PRのすすめ）”. 情報の科学と技術, 1994, 44, p. 484-489. https://doi.org/10.18919/jkg.44.9_484. (参照：2022-02-01)
- [9] 01-22. <https://youtube.com/playlist?list=PLtdwZioCy8RpS21XMCsTMfVKmrLa52n8L>. (参照：2022-02-01)

別紙1 チラシ表面



2021年3月、別府大学の図書館が生まれ変わりました。

これまで多くの学生の「知」を支え、社会に送り出してきた

歴史ある別府大学附属図書館が今伝えたいこと、

それは、「新しい扉を開く勇気を持つこと」です。

コロナ禍において、私たちの生活には様々な影響があり多くの変化を余儀なくされました。

図書館も例外ではありません。

しかし、図書館は、変化し続ける社会に柔軟に対応し成長してきた有機的な場所です。

今を生きる人々に何が必要かを常に考え、地域の人々と共に常に進化を遂げています。

今回は、別府大学附属図書館のリニューアルを記念して、

図書館の新しい扉を開き「図書館≠本の世界」をお見せしたいと思います。

そこで、地域で活躍するアーティストを迎えて、特別な時間をご用意しました。

是非、この機会に図書館での時間をお楽しみください。

お問い合わせ先：別府大学附属図書館 ℡: 0977-66-9633 mail: library@beppu-u.ac.jp

入場無料 *手指消毒やソーシャルディスタンス等感染予防対策にご協力ください。

*新型コロナウイルス感染症の状況によりオンラインのみでの開催になる可能性があります。

別紙2 チラシ裏面

出演アーティスト

2021.12.4 sat KUMIKO&Kai



大分県を拠点とし、ハワイアンを中心に音楽活動をしている Duo。スラックキーギターとウクレレの KAI、ボーカルとウクレレの KUMIKO で構成されている。聴いてくださる方々が笑顔になれるような演奏を心がけています。

2022.1.8 sat 小野美希 伴奏：小町美佳



小野美希(フルート)

大分高等学校特別進学コース音楽クラス卒業。

武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科フルート専攻卒業。

大分県音楽コンクール、九州音楽コンクール、KOBЕ 国際学生音楽コンクールなど、数々のコンクールで、優勝または、入賞。ミラノのカーサ・デ・ヴェルディでのリサイタルに推薦される。

霧島国際音楽祭にて、ポール・エドモンド・デイビスのマスタークラスを修了。室内楽において修了演奏会に選抜される。

東京国際芸術協会新人演奏会や、第 5 回アルゲリッチ音楽祭県出身若手演奏家コンサート、別府アルゲリッチ音楽祭プロモーションコンサート、文化庁戦略的芸術文化創造推進事業などに出演し、演奏活動を行う傍ら、日本クラシック音楽コンクール優秀指導者賞、ブルグミュラーコンクール、ブルグミュラー・レッスン賞を受賞する等、後進の指導にも力を入れている。

現在はなの森フルート教室主宰。

姫路大学非常勤講師。大分高等学校非常勤講師。パシフィックイングリッシュスクール非常勤講師。

ルミエールフルートアンサンブル、グループ UNO メンバー。



小町 美佳

大分市出身。大分県立芸術文化短期大学音楽科器楽専攻を首席で卒業、第75回東京読売新人演奏会に出演する。同大学専攻科修了。別府アルゲリッチ音楽祭プロモーションコンサートでは、伴奏ピアニストとして様々な共演者と多数出演する。県内外のコンクールやコンサートのピアノ伴奏を務める他、各地で様々な声楽家や器楽奏者との共演も数多く、各地で幅広く演奏活動を行っている。現在、大分高等学校、楊志館高等学校非常勤講師。大分中央合唱団ピアニスト。大分県立芸術文化短期大学ピアノ演奏員、同大学オープンカレッジ初級ピアノ講座講師。日本クラシック音楽コンクール審査員。

2022.1.22 sat 溝口伸一 (クラシックギター)



11 歳よりギターを竹内幸一、竹内竜次の各氏に師事。兵庫県のギタリスト故・稲垣稔氏に師事。音楽理論・ソルフェージュを加藤宏子氏に師事。

2009 年第 37 回山口ギターコンクール優勝。

2011 年第 57 回九州ギター音楽コンクール 首席。

2013 年第 40 回日本ギターコンクール 審査員特別賞。

大分県芸術文化スポーツ振興財団主催、アウトリーチプログラム登録アーティスト。溝口ギター教室を主宰、指導にもあたっている。九州ギター音楽協会公認講師。別府市在住。

地域で活躍するアーティストと共に新しい扉を開きましょう！

皆様のご来場を心よりお待ちしております。